

■はじめに

来年の2月には世界遺産学習の全国サミットが奈良で開催されます。奈良から始まった学習が、全国に広がり、九州や東北など全国各地で開催してきました。今回で10回目ということですので、世界遺産学習発祥の地である奈良市で、テーマを「世界遺産学習ーこれまでの10年、これからの10年ー」として開催させていただきます。



■世界遺産学習の始まり

世界遺産学習は、平成10年12月2日に「古都奈良の文化財」が世界遺産に登録されたのを機に、奈良の子供たちに、その良さを知ってもらおうとして始まり、平成19年度には「新しい世界遺産学習構築のための検討委員会」を立ち上げました。

■平成21年当時の世界遺産学習

当時、登美ヶ丘小学校・辻倉教諭の「心で感じて心で書こう」の実践や済美小学校・大西教諭の「新南都八景」の授業、椿井小学校・小島教頭のフォトストーリーの開発など新しい実践が次々と開発されました。開発されたこれらの実践からは、何の教材もない所から、本物の奈良をどう伝えていくか、あるいは子どもたちにどのように考えさせていこうかという、当時の現場の教員の熱い思いが伝わってきます。

世界遺産学習のあゆみ

平成10年	12月2日に「古都奈良の文化財」が世界遺産に登録
平成12年	副読本が刊行
平成13年	世界遺産学習現地学習が始まる
平成14年	「なら・ボランティアガイドの会」との連携始まる
平成19年	「新しい世界遺産学習構築のための検討委員会」設置

子どもに授業を行うとすれば、まず、教員自身そのことを深く知らなければなりません。世界遺産学習も同じです。教員が奈良にある「本物」と出会い、奈良の良さを感じ、感動し、それを子供たちに伝えていってほしい。そうした思いから、平成21年度から東大寺修二会の本業を見てもらう研修を始めました。この10年間で、のべ1000人近くの教員が参加しています。ほかにも、春日大社の式年造替の際の「檜皮葺」の見学や唐招提寺の鑑真和上像の「お身代わり像」の見学などの研修も行ってきました。

世界遺産は、偶然残っているのではなく、大切に受け継がれてきたからこそ、今、目の前にあります。世界遺産学習の原点は、奈良の良さを本当に知ろうとすることにあります。本当の良さを知れば、本物の実践が出てきます。本物を見て、本物を知り、本物に触れることが大切です。人は、感動すれば、誰かに伝えたくくなります。だからこそ、こうした本物に触れる研修を10年間、行ってきました。

■残したいと願い、残していく営みが続く

奈良にある素晴らしいものは、東大寺や春日大社、唐招提寺といった世界遺産に限ったものだけではありません。身近な校区にも、昔から大切にされて残されてきたものや、未来に残していかなければならない素晴らしいものが、たくさんあるはずです。

例えば、上深川地区に伝承される「題目立」です。出演するのは17才を中心とした青年たちですが、近年は17才の者だけでは人数が足らず、それに近い年上の者も一緒に演じ、継承していこうとしています。

大柳生地区に600年続いてきた「太鼓踊り」は2012年を最後に休止となりました。演じ手となる若者がいないからです。しかし、このことに心を痛めた子供たちが地域や保存会の協力を得て、その継承を行う実践が行われ、現在も続いています。この取組は、興東中学校（当時）がフォトストーリーにまとめ、ユネスコ協会の「私のまちのたからものコンテスト」に応募して最優秀賞を受賞しました。



自分が生まれ、育ってきた町の人々の思いを大切に、今度は子供たちがその担い手となってつないでいく。そのためには、その価値をしっかりと伝える学びが大切です。それが世界遺産学習です。こうした取組は、ユネスコの活動ともつながっています。

■ユネスコスクールと連動した取組を

奈良市では、31校園がユネスコスクールに加盟し、世界遺産も含め、地域とのつながりを大切にした取組を進めています。その地域に根差したユネスコの活動の一つとして平和の鐘の撞鐘があります。昨年度は34小中学校から332人が参加しました。担任が子供に働きかけ、こうした行事にも参加していくようになってほしいと思います。世界遺産学習と連動させることにより、将来の担い手を育てていくこととなります。

■世界遺産学習の推進（心の中に大事なものを蓄えた「人づくり」）を

世界遺産学習の現地学習が始まって、もうすぐ20年が経ちます。当時5年生だった子は、もう30歳になっています。7月3日の世界遺産学習推進懇話会で、「奈良教育大学の文化遺産教育専修のコースの学生が、世界遺産に関してよい本があると担当教官のところに持ってきました。それが『奈良大好き世界遺産学習』の副読本でした。」というエピソードを聞きました。その学生の中には、奈良市が行った世界遺産学習が息づいていると感じました。

世界遺産学習で目指しているのは、心の中に大事なものを蓄えた「人づくり」にあります。世界遺産学習の実践を推進し、現場の特に若い先生の背中を押していきたいと考えています。

